

EIWA UNIVERSE

第5号

発行日 2012.3.1

人間社会学科・外国文化フィールドワーク —台湾研修旅行—

ハイライト:

- 台湾研修の活動報告(1面)
- クリスマスプロジェクト2011(3面)
- カンボジアに井戸が完成!(6面)

研修日:2011年9月13日~9月16日 研修地:台湾(台北市、新北市、花蓮県) 参加者:8名
引率教員:鈴木恵子・蔡佩青

三ヶ月に亘る練りに練った企画と宣伝を経て、遂に実行した台湾研修旅行は、夏の麗らかな九月中旬の朝、一行10人が静岡駅から出発した。

半日後、真夏の午後の夕立を浴びながら、一方では眩しい太陽に赤く照らされた煉瓦造りの洋館、紅毛城(1629年にスペイン人が築いた要塞、台湾最古の建築)に着いた。淡水は、三十年代の昔の面影を残した古い街並が続く。布袋戯と呼ばれる人形劇の道具を展示している古い民家を訪れた。

二日目、世界四大博物館の一つ、台湾が誇る故宮博物館を見学した後、『千と千尋の神隠し』の舞台と噂される台北近郊の小さい町一九分に向かった。坂に沿って作られた細長い階段を上ると、赤提灯がずらりとぶら下がっている中、カオナシが顔を覗かせてくれた。



三日目は台湾東部の太魯閣国立公園へ日帰り小旅行を行った。列車で三時間弱をかけて辿り着いたのは、視野に収めきれないほどの雄大な大理石の渓谷だった。

いよいよ最終日。台湾近代史を語る中正記念堂、龍山寺や総統府など、台北市内で最も代表的な観光スポットをまわり、そして何年前まで世界一を誇った超高層ビル—台北101の展望台に登ると、三泊四日の研修旅行も終わりを告げるときが来た。

11月中旬、参加学生による研修発表会が開催された。「台湾の宗教観」「台湾のお茶文化」などをテーマにして、事前講義で学習したことや旅行中に体感したことを、それぞれ素晴らしいプレゼンテーションを行った。「現場で本物に触れる」というフィールドワークの名に相応しい演習の成果は、参加者全員の一生の思い出になると信じている。

目次:

学長あいさつ	2
学科ニュース	4
ボランティア 便り	6
キャリア支援課	6
こころの研究 センター	7
学務課	7
後援会	8

日々に感謝しつつ

学長 武藤 元昭



あの大地震から1年が経ちました。復興への動きは活潑で、本学からもボランティアが現地に出かけたりしています。しかし、被害があまりに大き過ぎて、そうした活動があと何年必要なのか見当もつきません。まして原発被害の後遺症となると、回復のメドも立たないという

感じます。人間は忘れっぽい生き物ですから、ともすれば脳裏から当初の衝撃が消え去ってしまい勝ちになりますが、むしろこれから益々援助の手が必要だということを考えておかなければならないでしょう。

そのような状況の中で、平穏な学生生活を送っていただけることに、我々は感謝しなければなりません。毎日が貴重な一日一日であることを肝に銘じておかなければなりません。

扱、この1年は学内にも変化がありました。地域福祉学科が「コミュニティ福祉学科」と名称を変更しました。また短大部が男女共学となりました。コミュニ

ティ福祉学科は、学科の内容をよりわかりやすくしたいということで、この名称になったのですが、その効果が表れるには多少の時間がかかりそうです。しかし、学科の基本的方針の1つである地域との連携という点では、皆さんの御努力のお蔭で良い成果が挙げられました。例えば「あちよぼ」という企画は、若いお母さんとその子供さんとが本学に大勢集まって大盛況で、テレビのニュースでも報道されました。また、知的障害のある方々に対する学習支援を目的とした「はびねす☆EIWAカレッジ」も成果を挙げました。

一方、共学となった短大部には両学科合わせて13名の男子学生が入学し、活気を齎してくれました。

また、この2年程で新しい教員も増え、それぞれ使命感に燃えて教育研究に携わっています。

卒業される皆さんの母校として誇れる大学を目指して、これからも静岡英和学院大学は発展していきたいと願っております。

富士山(新館5Fバルコニーから撮影)



創立記念礼拝(11月16日:新館5階講堂にて)

大学開学10周年となる今年度の創立記念礼拝では、キリスト者で和太鼓奏者である柳川立行氏による『和太鼓をとおした恵み』と題する熱いメッセージと柳川氏を含む若者3名による和太鼓奏楽【神を賛美する『祝歌』、土塊の我々に命を授けてくださった主に感謝する聖書の創世記からの創作曲『アダマー』、三宅島の伝統芸能『三宅太鼓』などの曲】を聴き、創立を祝う

ことができた。新館の講堂に集まった学生、教職員は心をつなげて、彼らの心と身体に響く力強いリズムカルな演奏に聴き入った。感謝。



2011年度静岡英和学院大学のクリスマス

本年度は9月末より「クリスマスプロジェクト2011」を発足させ大きく4つのプロジェクトを実施した。

まず、学内でクリスマスカードコンテストを行った。応募198枚のカードから今回はコミュニティ福祉1年小林未奈さんの作品が優秀賞として選ばれた。また今回応募のあったクリスマスカードはすべて図書館に展示した。

次に、アドベントの始まった11月27日よりイルミネーションの点灯と学内のクリスマスの飾り付けが学生有志によって行われ、構内がクリスマスのお祝いムード一色となった。また新館玄関には24個の窓をフェルトで作った英和オリジナルの特大大アドベントカレンダーが飾られた。

第三に、第二回ワンコイン・クリスマスコンサートを12月13日から20日まで昼休みの時間帯に新館一階にて開催した。これは3月の東日本大震災にあった東北三(キリスト教)大学(東北学院、宮城学院、尚絅学院)に送る義捐金を募るために7月に開催された第一回ワンコインコンサートに引き続いて行われたものである。コンサートには学年を問わず多くの学生や教職員が聞きに来てくれた。吹奏楽部、ダンスサークル、聖歌隊など英和大学の学生たちの演奏協力によって豊かな内容のコンサートを終え、集まった募金はクリスマス礼拝での献金と併せ、161,837円となった。尚、これは震災義捐金と社会福祉施設への献金とした。

第四は当プロジェクトのクライマックスでクリスマス礼拝が12月



21日新館5階講堂にて行われた。聖歌隊の賛美の後、「幼子のいる場所」と題して宗教主任伊勢田奈緒によるクリスマスメッセージと祈祷があった。その後、静岡英和女学院卒業生で現在、主として静岡で音楽指導や演奏活動されておられる渋谷文規先生による金子みすずの「こだまでしょうか」などの日本の歌曲や「アヴェマリア」の美しく心があたたまる独唱を聴いた。続いて本学教員の柴田敏先生と学生3名による「戦場のクリスマス」の朗読劇があり劇中、聖歌隊も加わり、今年度のクリスマスのハイライトであった(?)。

以上のように豊かなクリスマス礼拝が行われた21日の午後6時からW303教室にてキャンドルサービスとクリスマス会が行われた。今回は去年以上の学生の参加があった。一人一人の手にもったキャンドルの灯りの下、神聖な雰囲気の中、礼拝が行われた後、クリスマス会ではベルサークルによるクリスマス曲の演奏があったり、ゲームやおしゃべり、途中、ピアノと歌の演奏があったり、また盛りだくさんのごちそうをいただいたり、と学長を含む教員と学生が一緒になって楽しくなごやかな時を過ごすことができた。

以上、全てのプロジェクトを喜びをもって終えることができ、また特に今年はたくさんの学生がこのプロジェクトを支えてくれたことに感謝する。

(文責:伊勢田奈緒)



クリスマス
プロジェクト2011
心温まる
クリスマス礼拝

人間社会学科ニュース

静岡英和学院大学進学を考えている高校生と保護者の皆さんに本学のことを知ってもらおうというイベント「オープン・キャンパス」(各回、土曜午後実施)が5月、6月、8月、9月、12月に、無料の昼食をはさんで午前と午後に行われる「サマー・キャンパス」が7月31日に実施されました。

人間社会学科では昨年度「アニメディア」という年間共通テーマを設定し大変好評でしたが、本年度は東日本大震災を受けて「未来の子から」が共通テーマとなりました。閉塞的な重苦しさが日本を覆う中で、「静岡の“地から”」、発信する「未来の“力”」を若者たちに感じてもらいたいという教員たちの思いから決まったテーマです。様々な専門の研究者たちが集う人間社会学科ならではの模擬授業に、数多くの高校生と保護者の皆さんが毎回熱心に耳を傾けてくれました。

本年度最後のオープン・キャンパスは3月24日(土)です。

学科の近況報告

- ・台湾への海外研修旅行(詳しくは1面記事で)
- ・学際的こころの研究センター本格始動



コミュニティ福祉学科ニュース

大学と一緒に学ぼう!

「はびねす☆
EIWAカレッジ」が
スタート!!

2011年度より、地域で暮らす障害のある方を対象としたオープンカレッジ『はびねす☆EIWAカレッジ』がスタートしました。社会福祉士を目指す学生を中心とした実行委員会「はびねす」が企画・運営をしています。初年度は「暮らしを豊かに～ところとからだの健康づくり～」と題して、健康・心理・余暇・食文化などについて、教員や地元の画家・写真家を講師に迎えて年4回実施

しました。参加された方の暮らしがもっと豊かになるように、という思いのもと、学生が障害のある方と一緒に学んでいます。3月には、1年を振り返る活動報告会を予定しています。興味・関心のある方はどうぞお越しください。

活動報告会 3月3日(土)
13:00～16:00 静岡英和
学院大学 新館A305.306
教室



「はびねす☆
EIWAカレッジ」
スタッフ大集合

2011年6月より学生による子育て支援ひろば「あちよぼ」が始まりました。11月には170家族が参加してくれて、大盛況でした。最近では、何度も継続して参加してくれるリピーター親子が増えてきて、顔見知りになったお母さんから学生たちに声をかけてもらえるようになりました。



「あちよぼ」の活動風景
多くの参加者を迎え学生も活き活きと
活動していました。

「あちよぼ」では、乳幼児対象にしたあそびを学生たちが毎回企画しています。乳幼児に接する機会が少ない学生もいる現状です。「あちよぼ」のような保育実践を通してしか学べないことも多く、学生たちには大変よい学びの場になっています。学生自身、保育を振り返り、気になった点を改善しているようです。来年度もほぼ毎月「あちよぼ」は継続していきます。

現代コミュニケーション学科ニュース

しんきんビジネスマッチング静岡2011に参加

2011年10月18日、静岡市のツインメッセにおいて、「しんきんビジネスマッチング静岡2011」が開催されました。今年度から本学短大部も後援に加わり、就業力育成支援事業の一環として、短大部の学生の参加を募ったところ、現代コミュニケーション学科から23名もの学生の参加を得ました。参加学生には、事前に企業を学ぶ研修があり、当日は、企業のブースのアシスタントをつとめることとなりました。焼津信用金庫の皆様からのご配慮もいただき、各企業様からも歓迎され、学生達自身もよがんばりました。また、留学生の活躍も光ったイベントでした。



プレゼンテーション・コンテスト

1年生後期に開設されている「プレゼンテーション演習」のまとめとして、2012年1月25日に、「プレゼンテーション・コンテスト」を開催しました。各ゼミから選ばれた7名の代表が工夫を凝らしたプレゼンテーションを展開し、母国ミャンマーの水かけ祭りの紹介をしたイーモンピウトウンさんが最優秀賞に輝きました。



食物学科ニュース

食物学科の最近の出来事についてお知らせします。

* 楓祭で食育コーナー開催！

昨年度より行なっている、「大学生の就業力育成支援事業」の1つとして、楓祭(2011年11月5,6日)で、食物学科の学生による食育イベント、買い物ゲームコーナーを開催しました。子どもたちの大好きな着ぐるみ(中身は食物学科の学生です!)も登場し、大いに盛り上がりました。

* 秋の工場見学を実施しました。

今年は、1年生90人が、9月16日と20日にかけて、ロックフィールド静岡工場と、焼津水産加工センターを見学しました。バスの中では、新人ガイドさんを変えたマナー講座も行いました。ロックフィールドの工場では、近代的な生産設備を見学した後、デパ地下などで扱われているサラダの試食を行いました。水産加工センターでは、かつお節ができるまでを見学した後、食育体験として、かつお節削りを行いました。皆さん、鰹節を削



クレープ教室の様子

るのは初めてだったようで、削りたてのかつお節を味わっていました。

* 静岡ガスのイベントで、クレープ教室をしました。

11月27日(日)に行われた、「あったか家族のぽかぽかライブ in エネリア静岡ショールーム」に「クリスマス

のプチスイーツ」として参加しました。子どもたちを対象に、クレープ作りを体験してもらいました。当日は、約100名の親子に参加していただき、3種類のクレープ生地を使って、食物学科の学生の指導のもと、子供たちが大好きなトッピングをしました。食物学科の学生さんも、前日からリハーサルをして大変でしたが、子供たちと有意義な一日を過ごせたようでした。

* 食物学科プロジェクトーふるさとを食で元気に「食で」フレッシュ in 梅ヶ島」を開催しました。

梅ヶ島のまちおこし事業への協力として、2012年1月26日に、「食でフレッシュ in 梅ヶ島」を開催しました。京都の有名な料亭である「近又」のご主人である鶴飼治二氏をお招きし、



講演会は大盛況でした。

大学生の就業力
育成支援事業

様々な

食育イベントを

実施！

梅ヶ島の小中学校での食育授業(ぶり大根などの調理など)と、地元の方が対象の講演会を開催しました。講演会には、平日であるにもかかわらず、100名以上の参加がありました。

ボランティアセンターだより

文具&スポーツ用具をバングラディッシュとカンボジアの子どもたちへ！

ボランティアセンター学生スタッフは活動の一つとして、メンバーとして活動する留学生の提案を受け、国際協力の取り組みを行っています。昨年度は、カンボジアに井戸を贈るための資金作りに取り組み、その井戸が無事完成しました！



で収集して下さったり、全校生徒の皆さんの前でスピーチする機会を作って下さるなど、多くのご協力をいただくことができ、とても感謝しています。

集められた物資は、春休みを利用して補修作業や梱包を行い発送します。現地では留学生のご家族に、地元の小・中学校に届けていただく予定です。

今年度は、留学生の母国、バングラディッシュとカンボジアの子どもたちに文具とスポーツ用具を贈ろうと、福祉イベントでの模擬店出店や、募金活動で資金作りなどを行いました。また、入れ替え等で不要になったスポーツ用具を提供いただけるよう、県内の高校や市内の中学校に依頼文を発送。学内ではチャペルやポスターで協力を呼びかけるなど、物資の収集にも取り組みました。

文書を受け取った学校では、生徒会や福祉委員会など

貧富の差が激しいバングラディッシュ、内戦の影響が未だに残るカンボジア。勉強や運動のできる環境が整わない子どもたちのために何かできたら…。こうした思いを持つ留学生の取り組みを、これからも応援していきたいと思えます。引き続き皆さまのご協力をよろしくお願い致します。



福祉イベントでの
模擬店出展

キャリア支援課より

キャリア支援・就職支援活動—2011年度後期—

◆2011年度後期の活動

2014(平成25)3月卒業生の求人情報開始日が、従来の10月1日から12月1日へと変更されました。本学では、この繰り下がりに対して、11月下旬か12月初旬に実施していた「業界勉強会」を11月初旬に実施した以外は、昨年度・一昨年度文部科学省の補助事業で推進した「社会人基礎力の向上」や今年度推進している「就業力育成支援事業」を中心としたキャリア支援・就職支援を計画通り実施しています。その中の一つに「先輩から学ぶ—内定者体験発表会」があります。大学では2011年10月17日(月)に10名の学生に語ってもらいました。ここでは紙面の都合で、日本赤十字社静岡県支部から事務職として内定を得た学生の内容を掲載します。

◆体験発表の内容

12月に合同ガイダンスに参加し就職活動をスタートさせました。1月頃情報サイトに登録、20社にエントリーをしました。金融関係を中心に6社に応募その内の4社の面接を受けましたが、内定に至りませんでした。原因は、自分のやりたいことが分かっていたいなかったことやSPI・一般常識の勉強を全くしていなかったことでした。応募した企業の結果がすべて出た後の空白の時期4月末日頃、東日本大震災のボランティア活動に誘われ参加しました。このことで気持ちの切り替えができ、再び就職活動に取り組みました。少しでも自分でやってみたいと思える仕事を探せるようになりました。

内定をいただいた企業はその一つです。内定を決めた理由は、被災者支援に力を注いでいる法人だったからです。応募書類を準備する際には、今度はエントリーシートの書き方などをキャリア支援課の指導をお願いしました。私の場合自己アピールすることは、沢山あったので詰め込めばいいと考え書いていました。その結果、何を言いたいかわからないものになっていました。キャリア支援課の方からの指摘でそのことを気づくことができました。筆記試験対策もSPIの問題集をやるようになり、以前よりも早く多くの問題を解くことができるようになりました。心構えを作ることと早めの準備を勧めます。

◆支援を惜しみません

「就職活動は大変ですが、それによって成長します。私は就職活動で苦労したことで成長を実感しています。『大卒としてしっかり胸を張って働ける』と思いました。」これも体験発表者の学生の言葉です。リーマンショック以来、厳しい経済環境の中、学生は困難に直面していますが、苦しい中でも「大学で学んだことを社会に生かしたい。貢献したい。」と逞しく成長している姿を見せてくれています。大学は、学生の期待に応え、学生への教育とキャリア支援・就職支援に全力を傾けていきます。



10月1日就職保護者会
でのパネルディスカッション
の様子

『心理のおしごとキャリア講座』の報告

人間社会学科 教授（こころの研究センター長） 波多野 純

「心理のおしごとキャリア講座」を2011年12月17日(土)に開催した。本学が開学十周年を記念して今年度設置した「学際的こころの研究センター(以下、「センター」と表記)」の、最初の企画・主催行事である。年末にもかかわらず多くの参加者を得て、有意義な行事となった。

本学に心理コースが誕生して以降、心理学を専攻する学生や、オープンキャンパス等で本学を訪れてくれる高校生から、心理学の専門知識を活かせる職業について質問を受けることが多かった。そこでセンターでは、心理学に関心のある学生や地域の高校生、社会人の方々に、心理学と関連の深い仕事に特化したキャリア講座を提供しようということになった。一般的なキャリア講座は多くの大学で行われているが、心理の専門職に特化したものはめずらしい。また、それを地域の人々に開放したのも、本学センター独自の姿勢を示すものであった。近隣の大学で類似の行事が開かれた記憶はなく、貴重な機会になったと考えている。

当日は5人の専門職の方々にご協力いただいた。臨床心理士・精神保健福祉士・言語聴覚士・少年鑑別所技官・企業の従業員向けメンタルヘルス支援プログラム(EAP)提供企業とい

う場合に、幅広い職種を紹介することができた。「こころの専門職」として多く活躍の場があることを、具体的な現場の話を通じて知ってもらえたのではないだろうか。また、講座といっても一方向的な講演だけでなく、職種ごとに分かれた懇談会を第二部として設定したのも来場者には好評であった。

さらに、主催側として喜ばしかったのは、5名の講師のうち3名の方々が本学の卒業生であったことと、当日の講師はお願いできなかったものの現在専門職にある卒業生たちから、後輩たちに向けてメッセージが届けられたことである。「心理学の知識を活かす」ということを身近に感じられる行事になっていただけでなく、卒業生や地域社会とのネットワークづくりを目指すセンターにふさわしい催しができた。



「心理のおしごとキャリア講座」
第二部では個別に様々な
お話を聞くことができました。

楓祭(文化祭)

今年で46回目を迎えた楓祭のテーマは「革命～Revolution」でした。このテーマは文化祭に革命を起こそうという意味を込めて学友会で考えました。

今年は39の模擬店や展示が出展され、多くのお客さんで賑わいました。模擬店については、例年出展し円滑に作業を進める団体、今年初めてで色々苦戦している団体など様々でしたが、どの団体を見ても仲間同士が協力し合い、楽しそうに笑顔を活かしていました。また、展示や発表の部では一年間の集大成とし、多くの観客を魅了する一幕も見受けられました。二日目は生憎の雨天での開催となってしまいましたが、学友会企画



模擬店の様子

による催し、俳優 桐山 漣さんによるトークショー、二日間に亘る模擬店や展示・発表など雨雲を吹き飛ばすような盛り上がりを見せた文化祭となりました。

本学は大きな大学ではありませんので、学生同士が顔見知りであることは多いですが、何か協力して活動すると



屋外ステージではダンス大会を始め、
多くのイベントが開催されました。

いうことは普段の生活に多くありません。その意味でも「楓祭」は、お互いが大学という場でのコミュニティであり家族としての絆を深める祭典でもあります。

2011年は様々な災害や被害が大きく取り沙汰されてしまいう一年となりました。そして、様々な絆の大切さを知る年でもありました。

そんな絆の一片を本学でも深めあうことのできた二日間になったと思います。



軽音楽部による熱演♪

第46回楓祭

「革命～ Revolution」

後援会ニュース

2011年8月7日(日) 夏休みファミリーコンサート

宮崎駿監督のアニメ映画「となりのトトロ」の主題歌などで知られる、井上あずみさんを招きチャリティコンサートを行いました。

当日は親子で来場される方が多く、井上あずみさんの代表作でもある「さんぽ」「君をのせて」「となりのトトロ」などといった名曲が美しい歌声とともに講堂内に響き渡りました。コンサート終盤には、サプライズで来場された子どもたちを全員舞台上にあげ、「となりのトトロ」を一緒に唄い、可愛らしい歌声と、とびっきりの笑顔で幕を閉じました。



2012年2月5日(日) 中島啓江チャリティコンサート“絆”

オペラ歌手の中島啓江さんをゲストに招き“絆”をテーマにチャリティコンサートを行いました。参加者全員が歌と語りを織り交ぜた中島啓江さん独特の世界観に魅了され、迫力ある歌声、明るい人柄によって心温まる一日となりました。また、東日本大震災に対する想いを、現地での実体験をもとに語られ、人と人とのつながりの大切さを感じさせられました。



これらコンサートの収益金の一部は震災ボランティア等の経費として使われます。

静岡英和学院大学開学10周年記念事業

2012年3月10日(土) EIWAホームカミングデー開催決定!!

K-MIXの人気パーソナリティであり、静岡を代表するタレントでもある『久保ひとみさん』と『高橋正純さん』のお二人を招いてのスペシャルトークLIVEを開催。また、当日のスペシャルトークLIVEの様子は後日K-MIX内で放送しますのでお楽しみに。

第二部では卒業生・在学生・恩師等で交流パーティーを予定しております。懐かしい母校で学友や恩師とともに楽しいひと時を持ちたいと思いますので奮ってご参加ください。

あなたへ贈るメッセージ ~卒業生から在学生へ~

笑顔で社会人を迎えられるように“今”を大切に過ごしてください。

大学生活は社会に出るための準備期間です。色々な事にチャレンジし、自分の可能性を広げよう。

色々な事を学んで、沢山吸収して人として大きくなって下さい。

色々と厳しい時代ですが「希望」「夢」を常に持ち続けて下さい。

先輩の活躍を新聞等で拝見しています。これからも今まで以上に活躍を期待しています。

何か壁にぶつかったときに、周りの仲間と相談しよう。きっと何か明るい光が見えてきます。

人に聞くことは、恥ではありません。わからないままに終わらないようにしましょ。

EIWAホームカミングデー

■ 2012年3月10日(土)

受付 13:00 開始 14:00

会場 静岡英和学院大学 新校舎

内容

- I部 14:00~16:00 5階講堂
 - 記念礼拝
 - スペシャルトークLIVE
- II部 16:20~18:00 地下1階食堂
 - 交流パーティー



静岡英和学院大学
SHIZUOKA EIWA GAKUIN UNIVERSITY

〒422-8545
静岡市駿河区池田1769
TEL 054-261-9201
FAX 054-263-4763



静岡英和学院大学短期大学部
SHIZUOKA EIWA GAKUIN UNIVERSITY JUNIOR COLLEGE

http://www.shizuoka-eiwa.ac.jp
info@shizuoka-eiwa.ac.jp

企画・編集 学報委員会